

主催：新川史眼プロジェクト2018



静田神社



新潟平野の歴史は、水との闘いの上に成り立つ

新潟平野の歴史は、水との闘いの上に成り立つ。中でも象徴的なのは、許可に80年、工事経費2万6千両余、延べ人夫165万の汗の結晶で完成した新川掘削である。この工事の特筆すべき点は、武士階級ではなく、庄屋、農民層が主体で行った、言わば市民プロジェクトだったことである。新潟人のリベラルな資質は、まさに掘削を幕府に懇願した願人の魂の中に根ざしている。しかし、残念ながら多くの方は、このことを忘れかけている。新川掘削の史実を顕在化し、多くの人に新潟人の素晴らしさを伝えることを目的としてプロジェクト発起した。

今回、『にいがた百景』にも選ばれている新川と旧広通江が合流する近くの中州に鎮座する静田神社で映像展示とトークセッションを開催した。参加者からは「新潟で最も惹かれる特別な場所で行われるイベントに参加できたことは大変に光栄であった。また、内野

の住民や氏子様の協力が心にしみた。まさに、市民プロジェクトだと思った」「水の流れの音、風の鳴る響き、人々の営みと鳥たちの姿、時の流れと自然の恵みの中で生きていく無情を感じた。『新川史眼』新潟の地元の歴史を真正面から捉え、大切に残していく。その眼差しが画から、ひしひしと伝わってきた」「美しく切り取られた画、だけど重く深い。静田神社らしい作品を鑑賞した。多くの方に観てもらいたい作品だ」「この映像作品が供物の後ろに置かれ、まるでこの作品がご神体であるかのように見えた。そのためか、この神社全体が、奇妙な空間に感じたが、不思議な安らぎを感じることができた」などの声をいただいた。また、会期の後半は砂丘館で、内容を変えて映像作品展示とトークセッションを行った。

- 7月14日(土)～10月8日(月・祝)の金、土、日、祝日に、映像作品「新川史眼2018」展示(静田神社)
- 7月28日(土) トークセッション(静田神社)
- 9月14日(金) トークセッション(砂丘館)他